

わいぐ WA~IGU

「WAIGU」は、青森県南部弁の「私、行く（わぁ行く）」という方言が元になっています。
地域の課題に対して、市民が自主的に取り組む姿を、この一言に表しました。



～青森県点訳・音訳・デイジー編集赤十字奉仕団 八戸分団 むつぼし友の会～

1971年12月19日に設立された、視覚障害者のためのボランティア団体です。青森県視覚障害者情報センター（青森市）から依頼された、小説やエッセイ、説明書等の点訳・音訳図書を製作しています。また、中途失明者に対する点字指導、小・中学校や高校に出向いての点字学習会を開催しています。

点字が六つの点の組み合わせで成り立っているところから「むつぼし友の会」と名付けました。現在は点訳 19 名、音訳 26 名で活動していて、2021 年には設立 50 周年を迎えます。

写真は新年顔合わせ会の時の集合写真です。

詳しくは 3 ページをご覧ください。



- ★市民活動 Q&A・コラム 2 P
- ★表紙団体紹介・わいぐライブラリ 3 P
- ★WA~IGU 情報 4 P

団体運営相談

Q

&

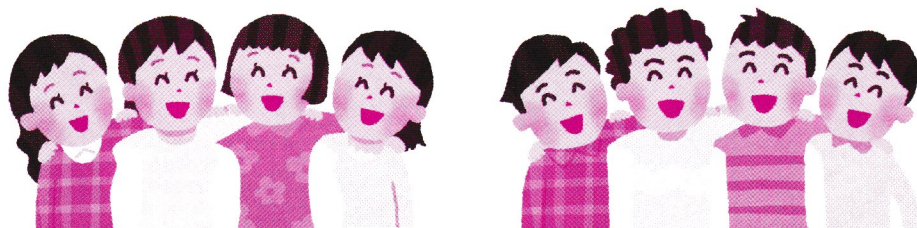
A

Q 現在の活動の中で、ボランティアスタッフにある程度の報酬が支払われる形で活動を継続させたいです。また、最終的には団体の法人格（NPO 法人）を取得し、事業を継続させたいのですが、どのような形で資金を調達したらいいのでしょうか。

A まずは総額でどのくらいの金額があれば今の活動が事業として継続していけるのか、どのような項目で、それぞれいくら必要なのか経理面から計画を立ててみる必要があります。その上で、会員から会費として資金を集めるのが確実で良い方法です。また、NPO 法人を設立するためには会員が 10 人以上必要とされているので、どちらにしても会員（実際に動くスタッフだけでなく、協力者や賛同者として）を増やすことを同時に考えていくことが活動継続の近道であると考えます。

ワンポイントアドバイス

仲間を増やすと資金も集まりやすく、活動が活発になります！



あなたも私も主役、それが市民活動！

2

ペンネーム：二つの翼



初体験は3年半前の夏。ちょっと大袈裟だけどそこから私の人生は変わった。それまではメッセージのやり取りはメールで十分、なんだか面倒そうだからと敬遠していた『ライン』を必要に迫られ、始めた。最初は恐る恐るで、家族と数人の知人との細々としたやり取りでしかなかったが、今は毎日の生活に欠かせない。家族や友人とのコミュニケーションはもちろん、特にグループでは司会なしでも意見交換でき、そのメッセージをまとめて見られることや短文でも失礼に思われにくいのがありがたい。グループ内で音声通話やビデオ通話もでき、移動せずに話し合いができるので時間的にも経済的にも嬉しい。グループのスケジュール管理や出欠確認ができるカレンダー機能、投票機能、写真や文書などの送信もできる。通話以外は、好きな時に対応できるのもメリットだ。これらのことを電話やFAX等、従来の方法でやろうとすると大変だ。事務的作業が格段に速まるのは間違いない。

高齢の方にこそ、このメリットを享受していただきたいと思う。体調が悪くて動くのが億劫でも、嵐でも吹雪でも家にいながら話し合いやメッセージのやり取りができる。メッセージは音声入力という手もある。メッセージやスタンプ1つで元気をもらうこともある。もちろん、使う上での気遣いが必要なことは言うまでもないが、相手を大切に思う気持ちがあれば乗り越えられる。

人生 100 年時代、この便利なツールを味方にしてもっと活動を楽しもう！わからなかったら若者に教えてもらうのもいい。そこから新しいつながりができるかも、ね。

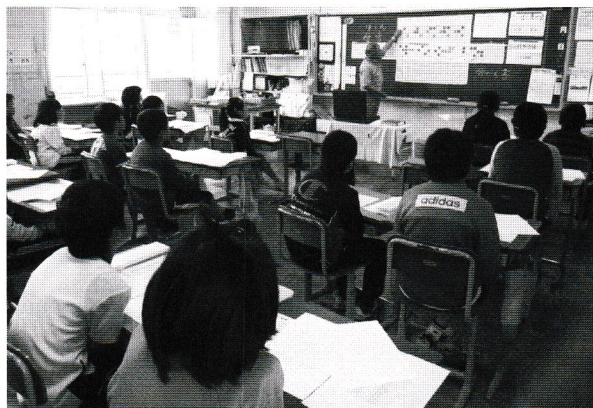
登録団体紹介

青森県点訳・音訳・デージー編集
赤十字奉仕団 八戸分団
むつぼし友の会

「視覚障害の知人に本を読んで欲しい」との思いから、有志による点字学習会を開催したことが活動のきっかけです。当時は視覚障害者の方から直接点字を学びました。せっかく身につけた技術をさらに多くの方々に利用してもらうことを目的に、1971年12月に団体を設立しました。

青森県視覚障害者情報センターの依頼により、点訳や音訳図書を作製するのが主な活動です。作業はパソコン等の機器を使用し、各自、自宅で行います。漢字の読み方、地名や固有名詞の読み方などを、辞書やインターネット・図書館を利用して調べます。点訳・音訳ともに指定された図書製作基準に則り、慎重に作業を進めます。点訳にはレイアウトや「マスあけ」など独自のルールがあり、音訳には正確なアクセントやイントネーションによる録音技術が求められます。月に一度の定例会や県内外での研修会に積極的に参加し、より良い図書の製作に努めています。

また、社会活動として、小・中学校での点字学習指導、定期的に八戸東高校に出向き、点字絵本などの製作を指導。音訳では毎年秋に朗読会を開催し、たくさんの方々にご来場いただいています。社会への発信にも力を注いでいきたいと考えています。



小学校での点字指導の様子

それぞれ仕事や家事、介護等を抱えながらの作業ですが、「必要とされている」という思いを励みに、活動しています。

近年は、高齢化に伴い増加している中途失明者への対応が急がれます。視力を失うことにより情報から遠ざかってしまう淋しさは、はかりしれません。せめてメモ程度の文章を点字で読み書きできれば、また、音訳から簡単に情報を得ることができれば、どれほど生活の役に立つことか。視覚障害を持つ方々に伝えていきたいと思います。

【問合わせ先】

～青森県点訳・音訳・デージー編集

赤十字奉仕団 八戸分団 むつぼし友の会～

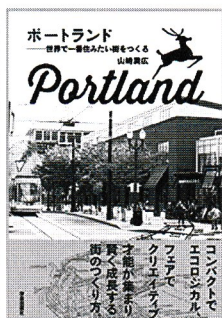
TEL 090-4314-9427(事務局 石橋由紀子)

～わいぐの魅力～

我々が安心して活動を続けることが出来る拠点です。同時に、他の団体の活動から良い刺激を受ける場所です。

わいぐライブラリー

ポートランド
— 世界で一番住みたい街をつくる



出版元) 学芸出版社
著) 山崎 満広

この10年全米で一番住みたい都市に選ばれ続け、毎週数百人が移住してくるポートランド。才能が集まり賢く成長する街のつくり方を、市開発局に勤務する著者が解説。

わいぐでは、市民活動に役立つ書籍を設置しております。スタッフのお勧めをご紹介します。

非営利団体の資金調達
ハンドブック



出版元) 時事通信社
著) 徳永 洋子

全国10万超のNPOの最大の悩み「資金をどう獲得するか？」

その答えを初めて、具体的に書きました。手紙やメール、申請書のサンプルを示して手取り足取りお伝えします!!



【イベント情報】

2020 全国膠原病フォーラム

全国膠原病フォーラムは、全国膠原病友の会が年に一度、全国各地で開催しているイベントです。今年は初めて青森県で開催します。膠原病専門医による講演を八戸市にて開催します。

●日時

2020年4月18日(土) 9:50~16:00

●会場

ユートリー (一般財団法人 VISIT はちのへ)
8階大会議室
〒039-1102 青森県八戸市一番町1丁目9-22
TEL: 0178-27-2227 (代表)

●内容

膠原病専門医による医療講演とシンポジウム

●講師

慶応義塾大学内科学講座リウマチ内科教授
竹内 勤 先生
順天堂大学医学部 膠原病内科准教授
小笠原 倫大 先生
東京大学先端科学研究科
渡部 沙織 先生

●主催

一般社団法人全国膠原病友の会

●共催

全国膠原病友の会北海道・東北ブロック
全国膠原病友の会青森県支部 (みつばち会)

●対象

膠原病患者・ご家族・興味のある方

●定員

130名 (定員になり次第締め切り)

●参加費

無料
昼食は各自ご用意ください。有料でお弁当を承ります。
(1,000円お茶付き: 要事前申込み)

●助成

青森県共同募金会 赤い羽根共同募金助成金

赤い羽根共同募金



同イベントのボランティアを募集しています!

●日時(活動時間)

2020年4月18日(土) 8:30~10:30

●集合場所・集合時間

左記会場 ユートリー8階大会議室前
8:30分集合(説明を行います。)

●活動内容及び服装等

- ①受付準備と、受付で書類を手渡す。(3名)
→きちんとした服装でお越しください。
- ②八戸駅で看板を持って立ち案内する。(3名)
→寒くない格好でお越しください。

●その他

学生(高校生・大学生)可。募集人数が集まり次第締め切ります。

交通費として1,000円を支給します。

※ご協力よろしくお願いいたします。

【イベント・ボランティアの申込み・問い合わせ】

全国膠原病友の会青森県支部 (みつばち会)

TEL: 090-9631-4388 (代表 中村)

E-MAIL: n777@snow.plala.or.jp

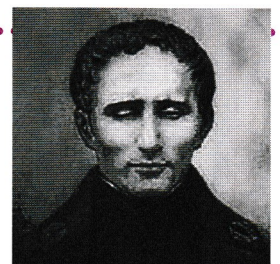
WEB: <http://kougen-ht.com>

紹介団体からの一言メモ知識!

点字は1825年にフランスの盲学校教師ルイ・ブライユにより考案され、1890年、石川倉次氏によって日本語に翻案されました。以降、視覚障害者とその周囲の人々にとって必要不可欠なものとなっています。現在ではジュースやビール缶、エレベーターや自販機、家電製品など様々な箇所に点字は表記されています。

ちなみに、ブライユの誕生日にあたる1月4日は世界点字デーです。

また、小惑星(9969)のブライユは、ブライユの名にちなみ命名されました。



ルイ・ブライユ

編集発行: 八戸市市民活動サポートセンター

「ふれあいセンターわいぐ」

発行回数: 年3回(6月、10月、2月)

〒039-1166 八戸市根城8-8-155

総合福祉会館「はちふくプラザ ねじょう」3階

TEL: 0178-73-3311 FAX: 0178-73-3312

E-mail: supo-cen@htv-net.ne.jp